



双塔

カトリック新潟教会

2019年9月
No. 376

キリスト教の十字架

協力司祭 ホセ・ルイス・ロレンソ

聖パウロによると十字架は、「滅んでいく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力です」（一コリント1:18）今回はこの十字架についての話しをしたいと思います。

キリスト教といえば、大事なシンボルの一つは十字架です。でも、イエス様の時代にはこれはローマ帝国の一つの恐ろしい処罰でした。一番恐ろしいと言ってもおかしくないと思います。十字架につけられた人々は最悪の犯罪者であって、一番苦しい死に方とも言えるでしょう。十字架上で失血や飢え、渇きで死ぬことより、人々は窒息で亡くなりました。でも、神様の計らいで、この十字架は私たちが罪から救うために、大事なるしとなりました。

教会の歴史にはこの伝説があります。326年ごろ、ローマ皇帝コンスタンティヌスの母、ヘレナは、イエス様の十字架を探すためにエルサレムに旅立ちました。神様からいくつかの啓示があったので、彼女が救い主の墓と十字架を発見すると信じていました。

そこで、エルサレムの司教である聖マカリウスの協力により、イエス様が十字架につけられた場所、ゴルゴタで発掘調査が行われました。イエス様が葬られた後、ユダヤ人は十字架を溝や井戸に隠し、石で覆ったので、信者が来て崇拝することはありませんでした。ユダヤ人の中から選ばれた少数の人だけが隠されていた正確な場所を知っており、神の導きに触れたユダと名付けられた人の一人が、それを発掘者に指摘しました。その後、ユダはキリスト教の聖人となり、シリアクスの名の下で称賛されました。

発掘中に3つの十字架が発見されましたが、イエス様の上につけられた掲示「ナザレのイエス、ユダヤの王」は十字架から切り離されていたため、それを特定する手段がありませんでした。神様からの導きによって、聖マカリウスは3つの十字架を瀕死の女性のところに運びました。彼女は次々、十字架に触れました。最初の二つの十字架に触れても何も変わらなかったが、三番目の十字架に触れるとその女性は再び元気になりました。それこそイエス様の十字架だと判断されました。

イエス様の十字架が発見された場所で教会が建てられました。その献堂記念日、9月14日は現在十字架称賛の祝日になっています。私たちはいつも十字架のしるしをしています。それにイエス様は弟子たちに「私についていきたい者は、毎日、十字架を背負って、私に従いなさい。」（ルカ9:23）これも私たちの呼びかけです。この世にはいろいろな試練や痛みがあるが、忍耐をもってイエス様に従うものは必ず、永遠の命を受けます。

最後にまた、この聖書の言葉を心にとめ、そして実践することができるように、神様の御恵みを求めましょう。「わたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝えています。すなわち、ユダヤ人にはつまずかせるもの、異邦人には愚かなものですが、ユダヤ人であろうがギリシア人であろうが、召された者には、神の力、神の知恵であるキリストを宣べ伝えているのです。」（一コリント1:23-24）